

【入選】「学校で食べる給食の思い出」

桜林小学校 平岩 桃依

学校給食について考えてみました。給食はこん立表をもとに給食センターの人達がバランスを考えたメニューを予定通りに作ってくれて、毎日同じ時間にとどけてくれます。これはすごいことです。家だと、母がいそがしいと予定のメニューが変こうになったり、食事時間がずれることもよくあるからです。こん立表も家にはありません。好きなメニューだとテンションが上がるしその逆のときは、ざんねんな気持ちになります。たとえばわたしは、えびがきらいです。とくに学校で出るえびのからあげが大の苦手です。丸ごと使われているからです。栄養があることはわかっていますが、やはりだめです。けれども、家とはちがいあまえることもできないので、がんばってほんの少しでも食べようと心がけています。家だと、わがままを言って手をつけないものもあります。と言うか、ひどく苦手な物は食卓に上がらないようにしてくれています。逆に好きな物は、ビビンバです。母に言ってビビンバをよく作ってもらいます。けれども学校の物とは、ぜんぜんちがいます。母は、学校のビビンバを食べたことがないので、うちオリジナルになっていきます。別の物ですが両方ともおいしいです。

地産、地しようと言う言葉があります。最近よ

く聞く言葉です。ビビンバには、たくさんのはうれん草が入っています。地元でとれたほうれん草だそうです。うちは、農家なので、秋から春までたくさんのはうれん草をしゅうかくします。家のビビンバにもとれたてのほうれん草をたくさん入れます。新せんなほうれん草はとってもあまみが強くてまるでおさとうをたくさんまぶしたようです。まったく別物のビビンバですが共通しておいしいのは、とれたての新せんな材料が使われているからかもしれません。

わたしは、一年生の時、足をこっ折してしまい約二か月間入院しました。最初の一か月はとにかく、ねたきりだったので、体が動かせずわたしの食事は、毎回おにぎりでした。ねながら食べられるからです。おにぎりは好きですがさすがに毎食は、あきてきます。個室でひとりできるときみしいし、体も動かせないのでおなかもすきません。入院中の食事はつまらなかったです。学校に行って、友達に会いたかったのです。そんな時、当時の担任の先生とクラスみんなが、サプライズで電話をかけてくれました。食事の時でした。その日はわたしのたん生日だったので、バスデーソングを歌ってくれました。びっくりしたし、とてももうれしかったです。あきあきしていたおにぎりが急にごちそうに感じられました。みんなと一緒にわいわい同じ物を食べる。給食の一番の楽しみは、こういうことかもしれません。